

平成 28 年 12 月 26 日

富山大学との共同研究契約締結のお知らせ

当社は、国立大学法人富山大学（以下、「富山大学」）と網膜変性疾患治療薬の研究開発を目的とした共同研究契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

富山大学では、神経栄養因子^(注1)の分子機構解明に関わる研究を進めており、その成果を活用して革新的な中枢神経系での新薬創製を目指した独自の薬剤評価試験法を確立しております。本共同研究では、富山大学において同評価試験法を用いてスクリーニングを行い、選択された開発候補化合物を当社において、動物モデルで評価し、臨床試験に進められる開発品を選定してまいります。

神経栄養因子は、神経細胞死の抑制や機能維持に必要であることが知られております。

今後、本共同研究での成果が得られた際には、富山大学および当社両者合意の上、当社が独占的実施権を受け開発を進めていく予定です。

網膜色素変性^(注2)や萎縮型加齢黄斑変性^(注3)等の網膜変性疾患は、未だ十分な治療法が確立されておらず、有効な治療薬の開発が望まれています。当社においても取り組む意義のある領域と考えております。

当社は、本共同研究を進めることにより、更なるパイプラインの拡充を図ってまいります。

以 上

用語解説

(注1) 神経栄養因子

神経細胞の生存、発生、機能に必要とされる因子。

(注2) 網膜色素変性

網膜に異常がみられる疾患で、暗いところでものが見えにくくなる（夜盲）、視野が徐々に狭くなる（視野狭窄）、視力低下等が特徴的な症状です。4,000人から8,000人に一人の割合で発症する病気で、遺伝性のものが約半数と言われておりますが、残りの半数については原因がよく分かっておらず、現在のところ根本的な治療法はありません。

(注3) 萎縮型加齢黄斑変性

加齢により網膜の中心部である黄斑に障害が生じ、視力が低下し、失明を引き起こす病気です。欧米では成人の失明原因第1位となっており、日本においても高齢者の増加に伴い増加傾向にあります。加齢黄斑変性には萎縮型と滲出型の2つの種類があります。萎縮型は網膜色素上皮が徐々に萎縮していき、網膜が障害され視力が低下していきます。